

MRI検査時に 注意が必要な貼付剤

MRI※検査とは、強い磁場を有する筒の中に体を入れて、「磁石」と「電波」の力を利用して体の断面を画像化する検査です。

MRI検査時に、**金属を含んでいる**経皮吸収貼付剤（以下、貼付剤）を貼付したまま実施した場合、貼付部位が熱くなったり、火花が起こったりして、**火傷を引き起こす**恐れがあります。

金属が使用されている貼付剤

持続性疼痛治療薬

ノルspanテープ®

禁煙補助薬

ニコチネルTTS®

狭心症治療薬

ニトロダームTTS®

これらを貼付されている方は、検査技師の指示に従って、MRI検査時には貼付剤を剥がすようにしましょう。

また、再貼付ができない貼付剤のため、検査後は、新しい貼付剤を貼るようにしましょう。

また、水分を含む貼付剤も、MRI検査時に熱を発生させる可能性があるため、ロキソプロフェンNaパップ®（経皮鎮痛消炎剤）等のパップ剤も剥がした方が望ましいといわれています。

※MRIは、Magnetic Resonance Imagingの略。磁気共鳴画像診断装置といえます。

薬剤紹介

フルオロキノロン系抗菌薬

ラスビック®錠75mg（略号LSFX）

特徴：

- 2019年に承認された比較的新しいキノロン系抗菌薬。
- 呼吸器・耳鼻咽喉科感染症を治療ターゲットとした薬剤
- 低用量でも組織移行性が高い
- 肝臓で代謝される薬剤のため、腎機能低下時に用量調節が不要

一般名：ラスクフロキサシン塩酸塩

用法・用量：成人には、1回75mgを
1日1回経口投与

効能・効果：

〈適応症〉 咽頭・喉頭炎、扁桃炎（扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍を含む）、急性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、中耳炎、副鼻腔炎

〈適応菌種〉 本剤に感性の以下菌種

グラム陽性菌：ブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌

グラム陰性菌：モラクセラ（ブランハメラ）・カタラリス、
クレブシエラ属、エンテロバクター属、
インフルエンザ菌

嫌気性菌：プレボテラ属

非定型菌：レジオネラ・ニューモフィラ、

肺炎マイコプラズマ（マイコプラズマ・ニューモニエ）

副作用：下痢 等

薬価：¥296.30/錠